

City of Sapporo



札幌が、もっとはじまる。

はじめに

市長あいさつ

基本理念・実施概要

ロゴマーク・キャッチフレーズ

ワークショップ



City of Sapporo 100th Anniversary ごあいさつ

大正11年(1922年)8月1日の札幌市誕生から令和4年(2022年)で100年の節目を迎えるにあたり、令和4年から令和5年3月末まで、さまざまな「札幌市制100周年記念事業」を実施してまいりました。

多くの市民や団体、企業等の皆さまの創意工夫により、市制100周年を記念したイベントの実施や商品開発・販売等を行っていただいたほか、記念事業に役立ててほしいと札幌市へのご寄附をいただくなど、様々な形でのご支援・ご協力をいただいたところです。札幌を盛り上げたいという皆さまの熱意と行動力をとても頼もしく感じることができました。

おかげさまで、様々な分野にわたって実施された記念事業が、市民の皆さまにとって札幌市の歴史や文化に触れ、未来について考えるきっかけとなり、札幌が持つ様々な魅力を再認識することで、このまちへの愛着や誇りがより一層深まったものと感じております。そして、その中で前を向いて歩もうとする若い力が着実に育まれていることを見ることができ、私は札幌市の明るく輝く未来への期待を胸いっぱい膨らませております。

改めまして、記念事業に多大なご協力をいただいた全ての皆さまに心から感謝を申し上げます。

この記録集は、札幌市制100周年記念事業の取組内容を記録・保存するとともに、広く皆さまと共有することを目的に作成いたしました。

これまでの100年を創り上げてきた人々への感謝と、これからの100年への希望を胸に、札幌がこれからも魅力的で持続可能なまちであり続けるよう、次の100年に向けた礎となるまちづくりを市民の皆さまと共に進めてまいりたいと考えておりますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます、発刊の挨拶とさせていただきます。

令和5年(2023年)3月

札幌市長 秋元克広



これまでの歩みと 新しい100年のはじまり

令和4年(2022年)8月1日、札幌市は、市制が施行されてから100周年の節目を迎えました。

100年前の大正11年(1922年)8月1日、札幌はそれまでの札幌区から札幌市になり、市としてのスタートをきりました。当時の札幌市は、人口は約12万7千人、戸数は約23,000戸、面積は約24平方キロメートルでありました。

夏季はさわやかで冬季は積雪寒冷を特徴とし、鮮明な四季の移り変わりがみられる札幌は、近隣町村との合併・編入によって市域を拡大し、また、大正13年(1924年)の路面電車の円山公園などへの延伸(昭和2年(1927年)路面電車市営化)、昭和25年(1950年)の第1回さっぽろ雪まつり開催、昭和26年(1951年)の円山動物園開園、昭和29年(1954年)の第1回さっぽろ夏祭り開催、昭和32年(1957年)の札幌テレビ塔展望台オープン、昭和35年(1960年)の藻岩山スキー場営業開始や公園等を利用した仲よし子ども館開設(平成8年まで)など、厳しく長い冬がありながらも、まちの魅力を高めながら人口は増加を続けました。

昭和41年(1966年)にはアジアで初めての冬季オリンピック開催が決定し、これを契機として社会資本の整備計画が策定され、地下街オーロラタウン・ポールタウン、地下鉄、豊平川右岸左岸堤防道路などの都市基盤整備、民間資本の建設が進み、昭和45年(1970年)には人口が100万人を突破しました。

昭和47年(1972年)2月の第11回冬季オリンピック開催は、人々の心に世界の友好親善の灯をともし、国際的に知名度が高まった札幌のまちには世界から観光客が訪れるようになりました。

また、同年4月には、札幌市は都道府県の事務の一部も行う政令指定都市に移行し、住民に身近な7つの区役所を開設、市民の声を聞く課を新設するなど新たな体制となっていました。

その後も人口増に対応し暮らしを豊かにするため、道路、上下水道、公園など社会資本整備が進むとともに、お住いの方々の交流やつながりの場である区民センター、体育館、図書館、児童会館や老人福祉センター、保育所などが市内各所に増えていきました。



さらにバリアフリー化など福祉のまちづくりの取り組み、乳幼児や就学児童等の子育て環境の拡充、昭和61年(1986年)の札幌芸術の森オープン、平成2年(1990年)の世界三大教育音楽祭の一つPMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)開催、平成9年(1997年)の札幌コンサートホール(Kitara)オープン、平成13年(2001年)オープンの札幌ドームを会場としたFIFAワールドカップ札幌開催(平成14年(2002年))・ラグビーワールドカップ開催(令和元年(2019年))、平成15年(2003年)のアイヌ文化交流センターや環境と芸術が調和したモエレ沼公園の雪冷房システムによるガラスのピラミッドオープン、平成23年(2011年)の札幌駅前通地下歩行空間開通と沿道ビルの接続や建て替え、平成27年(2015年)の路面電車ループ化開業、令和2年(2020年)の国際的な環境性能評価システムの認証取得など、暮らし、芸術文化、スポーツ、賑わい、環境など幅広い面で、まちの魅力を高める様々な取り組みが進められてきました。

また、このまちを住みよくするための各地域などの活動が、多くの方々によって地道に行われてきました。

お住まいになっていない多くの方々からも様々なかたちで応援していただきました。

札幌は、時代の変化や困難を乗り越えながらも、まちの魅力を高め、いまや人口約197万人、世帯数約98万世帯、面積約1,121km²、10区からなる、北海道の中心都市、市民愛着度の高い世界に誇る大都市に発展しています。

札幌市誕生100年の節目に当たり、私たちは、先人の皆さまの取り組み、築き上げてきた財産に感謝をし、そして先人の皆さまから受け継いだこの札幌をこの先に向かって育て引き継いでいかなければなりません。

いま私たちは、地球環境や身近な環境を保全し次世代に引き継いでいくための脱炭素社会の実現、少子高齢化・生産年齢人口の減少・総人口の減少など人口構造の変化、新型コロナウイルス感染症に対応する行動変容やデジタル化の進展、長い間市民の活動を支えてきた都市基盤のリニューアルなど、向き合っていかなければならない社会変化の最中にいます。

これまでの100年の歩みに思いをいたし、札幌がこれからも魅力的で持続可能なまちになるよう、新しい100年に向けて共に歩みを進めていきませんか。



札幌市制 100周年記念事業に ついて



1

実施目的

札幌市は、大正11年(1922年)8月1日に市制を施行し、令和4年で100周年を迎える。これを機会に、持続可能なまちを目指し、市民が札幌の文化や歴史に触れ、未来について考えることを通して、札幌に住み続けたいという思いを抱くきっかけづくりを行う。

また、市制施行100周年は、コロナ禍によって打撃を受けた札幌が、改めて内外にその魅力をアピールする好機でもあるため、市民に札幌への愛着や誇りを深めていただくとともに、少しでも早く活力ある元気な札幌を取り戻すことに資するよう、「札幌市制100周年記念事業」を実施する。

2

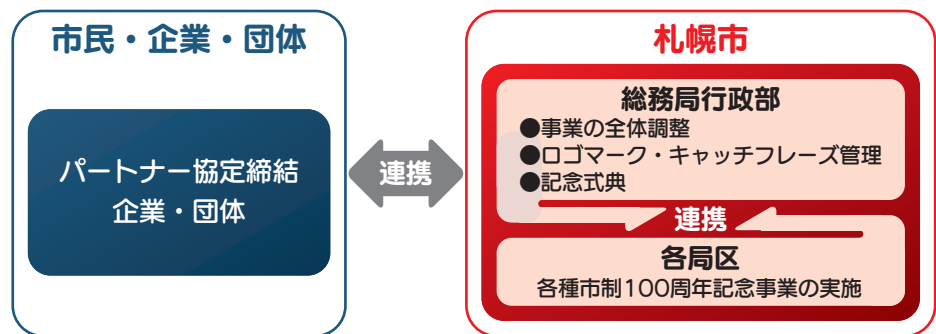
実施期間

令和4年(2022年)1月～
令和5年(2023年)3月31日



3

実施体制



札幌市制100周年記念事業の実施にあたっては、市民や各種団体・企業等と協力し合いながら機運を醸成することとし、「札幌市制100周年記念事業パートナー協定」の締結も行うことで、締結先の各企業・団体もつそれぞれの媒体やイベント、ネットワークを生かした取組を行うものとする。

また、これら民間企業等の取組と連携を行いながら、札幌市においては、事業の全体的な調整や市制100周年記念式典を総務局行政部が所管し、各局区において100周年記念事業を実施するものとする。

はじめに

ロゴマーク・キャッチフレーズ

ロゴマーク キャッチフレーズ

札幌市の魅力を未来につなぐシンボルとなる、ロゴマークとキャッチフレーズを一般公募により作成しました。作成したロゴマークとキャッチフレーズは、様々な100周年記念事業や、それに向けた各種PRなどで活用しました。

決定までの経過

募集期間

令和3年(2021年)
9月1日(水)～
20日(月)

応募総数

キャッチフレーズ
1,628作品
ロゴマーク
337作品

一次審査

10月5日(火)
事務局と審査員の
審査により
それぞれ3作品を選考

一般投票期間

インターネット投票
10月11日(月)～
24日(日)
投票結果
投票者数687人

最終審査

10月26日(火)

一般投票で最多得票を獲得した作品に1票が入り、それに加え、審査員4名による各1票の投票を実施。
合計5票の投票の結果、最多得票を獲得した作品を最優秀作品として決定。

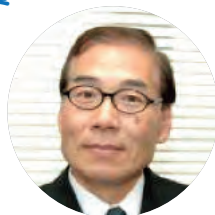
審査員



審査委員長
細谷 多聞氏
札幌市立大学デザイン学部長



審査委員
小林 仁志氏
アリカデザイン代表取締役
クリエイティブディレクター
アートディレクター



審査委員
白井 栄三氏
マーケティングプランナー
北海道教育大学非常勤講師



審査委員
葛西 紀明氏
株式会社土屋ホーム
スキー部選手兼監督

ロゴマーク



キャッチフレーズ

札幌が、もっとはじまる。

●最優秀賞者 **山下 良治** さま

●作品に込められた想い

札幌の街に時を告げる時計台が、札幌市の100周年をお祝いする様子を表現しました。青空と赤い屋根が調和するデザインで、住みたい街札幌の魅力をさりげなくアピールしました。

●最優秀賞者 **眞木 雄一** さま

●作品に込められた想い

歴史と新しさ、自然と文化が調和する札幌市が、人々の誇りと愛着そして希望に根ざした平和的な強い力によって、北海道全体とともに素晴らしい未来へ向かってゆく姿と勢いを表現しました。

はじめに
ロゴマーク・キャッチフレーズ

主な活用事例

多くの皆さまにロゴマーク・キャッチフレーズをご活用いただきました。ここではその一部をご紹介します。



日本清酒株式会社 さま



岩田地崎建設株式会社 さま



北海道のゆうべ(北海道文化放送株式会社 さま)



札幌スタイルPR展
(センチュリーロイヤルホテル さま)



株式会社仙台銘板札幌営業所 さま
さっぽろ鮭&BARキャンペーン実行委員会 さま

札幌市で使用している封筒

ロゴマーク・キャッチフレーズがデザインされた封筒を作成し、皆さまへ文書を郵送する際等に使用しました。



バックパネル

ロゴマーク・キャッチフレーズがデザインされたバックパネルを作成し、市長記者会見等で使用しました。



旗

ロゴマーク・キャッチフレーズがデザインされた旗を作成し、札幌市役所本庁舎正面玄関前ポールに掲揚しました。

はじめに ワークショップ

開催日時

令和3年(2021年)
12月16日(木)
19時~21時

ワーク ショップ

参加者

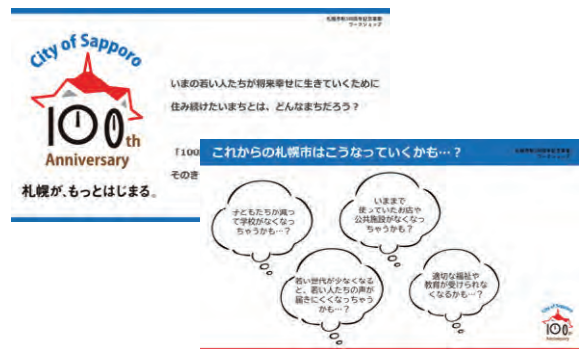
15名

10代：4名
20代：6名
30代：5名

記念事業を実施するにあたり、札幌の未来を担う若者をはじめとした市民の皆さまの意見を取り入れるためのワークショップを開催しました。

当日は公募で集まった15名の方にオンラインで参加いただきました。

参加者には、日頃どんな方法で情報収集をしているのかや、どんなイベントや企画だったら札幌の魅力が知れると思うか、記念式典がどんな内容だったら参加してみたいと思うか、などのテーマに沿って意見交換をしていただきました。参加者からは、アニメ等のキャラクターとの連携や、まちを創るゲームを使って未来の札幌のまちを創り上げる企画といった具体的なアイデアのほか、思いきったインパクトのある要素を取り入れるべきことや、社会貢献の視点を取り入れてはどうかなど様々なアイデアをいただきました。



子どもも大人も
参加できる
イベントに
してほしい!

記念切手や
記念コインを
作るといいかも

初音ミクとかと
コラボして!

抽選でもいいが、
なにかもらえたら
うれしい

テレビ中継を行う
など全員参加の
雰囲気を出して
ほしい!

タカアンドトシ
さんの漫才が
見たい!

パトリンリレーなど
小学生などと
連携することが
できたらいい

主な意見
アイデア

学生デザインの
装飾をおこなう!

ガンダムも
100年に関係が
あるためバンダイと
コラボする

ドローンで
たくさん飛ばして
札幌の街を
上からみる

バスや地下鉄などの
公共交通機関を
ラッピング!

サーモン
食べ放題
をしたい

マインクラフト
で未来の
札幌コンテストを
してほしい!

みんなで
ごみ拾い!
その中に100万円
を仕込んで
探すゲーム!